

ふくい 社会福祉

2019
3
No.435

Fukui Social Welfare



3.11 希望の灯り点灯セレモニーの様子(8ページ目に関連記事)

CONTENTS

2,3P 特集

地域共生社会・地域包括ケアの推進に向けて

- ①「地域福祉実践研究フォーラム2018 in ふくい」開催報告
- ②地域発「我が事・丸ごと」推進セミナー開催報告

4,5P 大会等報告

- ◆高齢者相談機関連絡会開催報告
- ◆ふくし広報力アップセミナー開催報告
- ◆子ども福祉委員モデル事業成果報告会
開催報告
- ◆第13回『シニア・アート展』開催報告

6,7P 社協TOPICS

- ◆2019年度福井県社会福祉研修所研修実施計画
- ◆福祉サービス第三者評価事業の受審のお願い
- ◆2019年度貸付事業募集開始のお知らせ

8P

- ◆寄付・寄贈
- ◆賛助会員募集
- ◆3.11希望の灯り点灯セレモニー

別紙 社会福祉関連民間助成事業の紹介



地域共生社会・地域包括ケアの推進に向けて

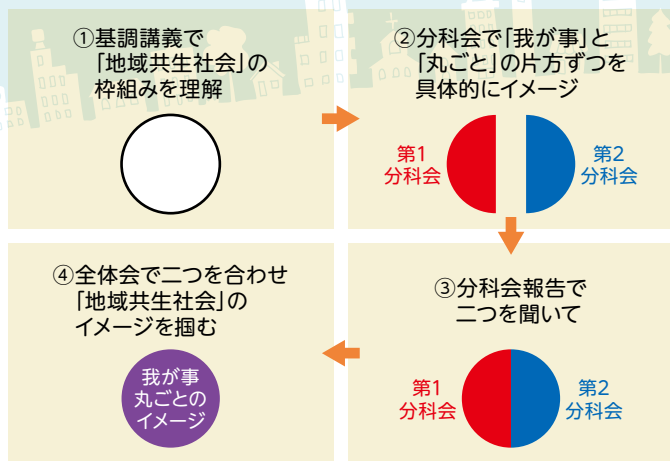
特集①

地域共生社会の実現に私たちはどう関わる事ができるのか

「地域福祉実践研究フォーラム2018 in ふくい」を通して考える

地域福祉の推進を図るため、県内の実践を通して考えるフォーラムが、去る1月11・12日、福井商工会議所において開催され、県内外から124名が参加しました。フォーラムは、4部からなっており、「地域共生社会」について順次、理解を深めてもらう構成で開催しました。

●（フォーラムの全体像）



1日目

はじめに基調講義で「地域共生社会の実現に向けた地域づくり」地域福祉実践のこれまで「これから」と題し、厚生労働省社会・援護局地域福祉専門官の玉置隼人氏より、支え・支えられる関係の循環が地域共生社会の考え方であるなどの説明がありました。

次に分科会に分かれ、第1分科会では「我が事」住民が主体的に地域課題に向き合うしくみを考える」をテーマに、金城学院大学教授の朝倉美江氏がコーディネーターとなり、○福井の大雪における生活支援の実践・永平寺町社協（白崎恭久氏）、○地域が支える世代を超えた交流・みんなの食堂（野尻富美氏）、○事例を基にした他人事を我が事に変える支援とは・福井市障がい者基幹相談支援センター（敦賀弘道氏）から実践発表がありました。住民の生の声を取り組みにつなげ、少しずつ地域の意識が「我が事」に変わっていく実践の報告を、参加者は真剣に聞いていました。

第2分科会ではコーディネーターを皇學館大學現代日本社会学部准教授の

大井智香子氏が務め「丸ごと」包括的な相談体制の構築を考える」をテーマに、○包括的支援体制整備事業の実践を通して・坂井市（斉藤正晃氏）、○「わがまちあいプロジェクト」による潜在的生活困窮の掘り起こしを通して・越前市社協（児玉勝氏）、○包括支援センターの取組みを通して・福井九頭竜包括支援センター（小澤千恵美氏）からの実践発表がありました。総合的に相談を受け止め、専門職として出口に向け、どのように関わるのか、参加者は大変参考になったとの声が聞かれました。

両分科会とも、まとめきれないほど多くの質問が出され、参加者にとって充実した時間と場になりました。



基調講義の風景

2日目

前出の白崎氏と児玉氏からの各分科会報告に対し、朝倉氏と大井氏は「地域福祉は継続が大事、みんなで幸せになるのが地域福祉」、「縦割りに慣れてしまった私たちの意識改革、理想を持って他分野と考えることで、仕組みを作っていく」とコメントした。

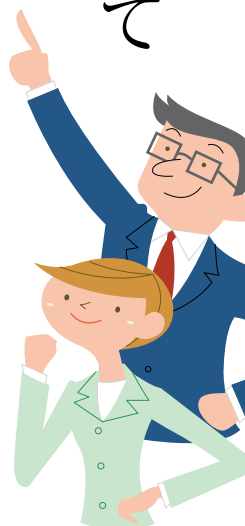
次に、愛知教育大学教授の川島ゆり子氏がコーディネーター、白崎氏、児玉氏、敦賀氏の3人がパネラーとなり、全体会としてフォーラムのまとめが行われました。

川島氏からは「地域共生社会を専門職だけで語ってよいのか？このフォーラムは、参加者各々が次の一手を見つける場。自身の実践にどのように応用するかを考え、それを持ち帰ってほしい」と投げかけがありました。

終了後の関心度71%→89%へ

終了後のアンケートでは、内容に「関心がある」と答えた方が、参加前の71%から参加後は89%に上昇しました。

2日間を通して、住民と共に考え、すべての人が生きやすい社会を作る覚悟が専門職として求められていることを改めて理解し、我々、福祉専門職が地域の一員として、どう関わっていくかが、今後の取組みに大切な視点であると気づかされました。



地域発「我が事・丸ごと」推進セミナーを開催

専門職と地域住民が地域づくりを一緒に学ぶ

去る1月26日(土)、平成30年度地域包括・在宅介護支援センター協議会研修「地域発『我が事・丸ごと』推進セミナー」が県自治会館で開催されました。

セミナーには県内の地域包括・在宅介護支援センター職員や社協職員、民生委員など約150名が集い、「地域共生社会」・「地域包括ケア」の実現に向け、専門職と地域住民が丸ごとで取り組む地域づくりのあり方を学びました。

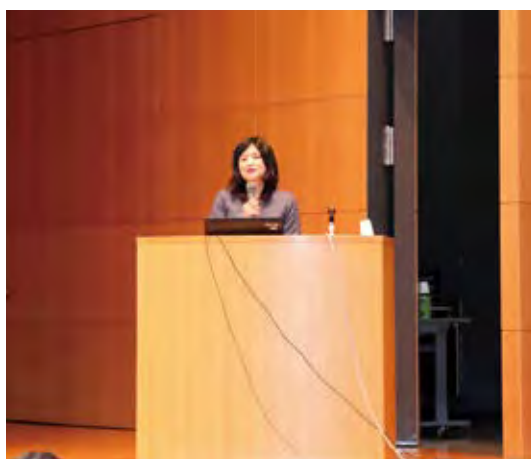
講演

NHKのドラマ「サイレントプア」の監修のほか、同局の「プロフェッショナル」仕事の流儀」にも出演された大阪府豊中市社会福祉協議会の勝部麗子福祉推進室長をお迎えし、「地域における丸ごと相談と支援を考える」と題して、豊中市における様々な取り組みを紹介いただきました。

「助けて」という声を出せない人を見逃さない「ローラー作戦」では民生委員を中心として年間4000件もの世帯を訪問したり、定年後の男性を対象にした「豊中あぐり」で健康維持・仲間づくりを通じた農業の学びや居場所づくりをすすめるなど、生き活きと活動するシニア男性の様子を映像を交えて紹介していただきました。

また、こどもから大人まで参加できる「みんなの食堂」や支えられていた

人も支える側になる「福祉便利屋」の取り組みなど、人を大切にする気持ちや地域住民を巻き込むことの大切さも伝えていただきました。



パネルディスカッション

「地域がその気で動き出す『我が事・丸ごと』の種探し」をテーマにコーディネーターには愛寿苑在宅介護支援センターの下島礼子氏、助言者に

勝部氏、パネリストとして大野市春日野地区前区長の安川勲氏、小浜市社会福祉協議会支援センター長の山下美恵氏、福井不死鳥包括支援センター長の中川寿美江氏の3名に登壇いただき、

実践報告と質疑応答を行いました。

安川氏からは、地域住民が主体となった見守り活動や配食事業、総務省から「防災まちづくり大賞」を受賞した自主防災活動など、地域ぐるみの取り組み実践を紹介いただきました。

山下氏からは、市町の区域を超えて専門職と郵便局や警察など社会資源との協力で認知症高齢者を見守り、支援した実践を、中川氏からは、民生委員からの相談内容や地域の実践活動の把握・分析の手法に関する取り組みの発表をしていただきました。

いずれも県内の事例ということもあり、参加者からは「実践報告を身近に感じ、今後の地域福祉実践の参考になりたい」という声が多く寄せられました。

地域共生社会・地域包括ケアの実現に向けて

勝部氏の講演とパネリストによる実践報告から、地域づくりをすすめるためには、専門職が諦めない気持ちを持つこと、地域住民のできる範囲で、無理のない継続した支援が大切であることを学びました。

これからの「地域共生社会」・「地域包括ケア」の実現に向け、専門職と地域住民が協力して地域づくりをすすめるためのヒントを得た実り多い1日となりました。



高齢者相談機関の連携強化

「平成30年度 高齢者相談機関連絡会」開催報告

2月12日(火)・15日(金)に県社会福祉センターおよび敦賀市プラザ萬象にて、「平成30年度 高齢者相談機関連絡会」を開催しました。

県内地域包括支援センターをはじめ、市町社会福祉協議会、市町高齢福祉主管課等の職員が参加されました。

この連絡会は、福井弁護士会および福井県社会福祉士会の協力を得て、近年の高齢者に関わる相談事例等を紹介し、特に困難な事例への対応力の強化を図ることを目的に毎年開催しています。

はじめに、県長寿福祉課より「県内における虐待発生の傾向と県の取組み」について説明をいただきました。

また、嶺北会場では、高齢者虐待に関する事例を福井川西包括支援センター清水美菜子氏に、嶺南会場では、高齢者の金銭管理に関する事例を若狭町地域包括支援センター 鳥羽祐一郎氏に発表いただきました。

実際に高齢者権利擁護対応専門職チーム派遣事業(以下、チーム派遣)を活用し、弁護士と社会福祉士の助言に基づき、今後の方向性を立て、的確に改善・解決に結び付けた実践例でした。

さらに、今回の連絡会では、「チーム派遣」を数回活用し、一つの事例に継続的に関わり解決に導く方法について意見交換も行いました。事例を用い、2回目の

派遣のタイミングを想定しながら、解決に導く手法について、グループワークを通じて検討しました。

参加者からは、職種や役割によって、色々な捉え方があることや、介入時期を見極める力が不可欠であること、自分たちの対応を振り返りながら課題を整理し、次のステップに進む活用方法があること等、新たな視点が生まれたようでした。

また、助言者からは、ご本人の思いを尊重し、将来を見通した適切な情報収集をすること、対応する際の支援者同士の役割分担の重要性についてアドバイスがありました。

近年、高齢者虐待や孤独死等、高齢者やその家族、さらには地域を取り巻く環境がますます複雑化・多様化しています。

「声を上げること、表に出すことは決して悪いことではない。」という共通認識のもと、日頃から高齢者相談に携わる者同士、より一層の連携強化に努めていくことを再確認しました。



連絡会の風景



「ふくし広報力アップセミナー」を開催しました

去る2月22日(金)、県社会福祉センターにおいて、市町社協や地区社協、社会福祉施設・事業所、福祉団体等の広報担当者を対象にした「ふくし広報力アップセミナー」が開催されました。

本セミナーは、県社協が福祉の現場の広報力強化を目的に、平成25年度から県内社協や社会福祉施設・事業所等を対象に実施している「ふくし広報コンテスト」の一環に位置づけ、コンテストの入賞作品から福祉の効果的な「伝え方」、「魅せ方」について学ぶことを目的に開催したものです。

講義では、コンテストの審査員でもある株式会社ウララコミュニケーションズの杉木健太郎氏を講師に、編集のプロとして誌面づくりのポイントや過去のコンテスト

の入賞作品を取り上げながら、「良い所を真似する」ところから始める広報誌づくりについて指導がありました。



講義・演習の様子



撮影実践の様子

また、演習では、広報誌の企画書に当たる「サムネイル」の作成に取り組み、受講者はお互いのアイデアを共有していました。

続く実技指導では、ビジュアル・クリエーターのマイク・ヨコハマ氏から、デジタルカメラの基本的な知識とテクニックを撮影実践も交えながら教わりました。

受講者は、撮影する相手とアイレベル(目の高さ)を合わせることや顔の明るさが背景や服装の明暗に影響されることがなどを学んでいました。

今回のセミナーがさまざまな人の幸せに関わる「ふくし」の現場の魅力や価値が広報誌を通して表現され、伝わっていくきっかけになればと思います。



子どもの目線で地域課題を探り、支え合いのまちづくりを目指す『子ども福祉委員モデル事業』の2年間の成果を発表する報告会が3月5日行われました。社協、地区社協、福祉委員など50名程が参加し、熱心に報告に聞き入っていました。

学校での学びを社会で活かす “サービスラーニング”

始めに日本福祉大学 村上徹也教授が「サービスラーニングの視点を踏まえた福祉教育の実践」と題して講義。学校で学んだ知識を社会に活かすことを循環させるサービスラーニングは、学習成果が体験を通じて定着することで、意欲向上につながり、学校と地域の連携ができる



村上氏と実施社協



の話がありました。

小浜市社協の報告

「何かしたい」から
「何ができるか」へ



委員2年目の小学生たちは、活動拠点を校内から外へ。いろんな地域課題を目の当たりにし、子どもたちの考えが「何かしたい」から「何ができるか」に変化し、共同募金参加を皮切りに、次々と地域活動に参加していきます。地域にある公園は、同じ場所なのに思い出が違う子どもとお年寄り。交流を通じた思い出の共有、こんな小さな積み重ねが相互理解につながっていきました。

坂井市社協の報告

住んでいるところの活動に
加われない理由はない！



伝承料理づくり、卓球バレー等、地域の活動に参加しながら、小学生たちが地域に溶け込んだ2年間。活動が地域で有名になるほど定着し、学校の先生からも「地域に子どもを任せようと思う」と言われるほどの信頼を得ました。「住んでいるところの活動に加われない理由はない」という検討委員の言葉は、

この地区が誰も排除しないという温かさの表れではないでしょうか。



池田町社協の報告

地域の資源をすべて活かす！
高齢化率43%、福祉課題を聞いた小学生たちは、町の魅力を残そうと「ミライレンジャー」として立ち上がり、それを支える大人たちは「未来のこし隊」として役割を担います。お年寄り向けゲームを考案する時はシニア体験装具をつけてやってみるなど、人々との関わりの中で思いやりが生まれ、子どもが成長していきます。そんな中、大人たちも雪囲いや漬物など「暮らしの知恵」を伝える活動を始動させ、地域資源フル稼働で町全体の取組みに発展していきました。

取組みを通して共通していることは、子どもが動く大人が動き、ひいては地域が変わっていくことが実証されたことです。県社協はこの成果を踏まえ、子ども福祉委員の取組みを全県的に広げていきたいと考えています。

第13回 いま、輝く『シニア・アート展』

趣味を通して仲間づくりや生きがいづくりを行っている「チャレンジ塾生」と、豊かな経験・知識・技能を活かして地域で活動が続けている「アクティブシニア」が、日ごろの成果を発表するため、2月22日(金)～24日(日)、ショッピングシティベル(福井市)において「第13回 いま、輝く『シニア・アート展』」を開催しました。

当日は、水彩画や写真、陶芸などの作品が約150点展示されたほか、オカリナや合唱&アンサンブルの音楽ステージの発表が行われ、延べ1,301名の方にご来場いただきました。



2019年度 福井県社会福祉研修所 研修実施計画

(1) 福祉職員生涯研修「キャリアパス対応課程」の実施

研 修 名	開 催 時 期	開 催 場 所
① 初任者研修	4～11月	福井・丹南・嶺南
② 中堅職員研修	5～10月	福井・丹南・奥越
③ チームリーダー研修	9月上旬	福井
④ 管理職員研修	8月下旬	
⑤ 初任者フォローアップ研修(老人、保育、障がい)	2020.1～2月	福井
⑥ 中堅職員フォローアップ研修(老人、保育、障がい)	2020.1～2月	

(2) 福祉職員専門課題別研修の実施

研 修 名	開 催 時 期	開 催 場 所
① 人材定着のためのワークステージ向上研修	5月	福井、丹南
② 新社会福祉法人監査実務研修	8月	
③ クレーム苦情対応研修	10月	
④ 接遇研修	5月・11月頃	
⑤ 施設ケアマネジメント研修	10月	
⑥ アンガーマネジメント研修	7月	
⑦ アセスメント研修(居宅サービス計画ガイドライン全社協方式)	6月・2020.1月	
⑧ 高齢者・障害者虐待防止研修	11月頃	
⑨ 福祉施設のレクリエーション研修	8月頃	
⑩ 記録の書き方研修	10月頃	
⑪ 部下とのコミュニケーション研修	5月	
⑫ 自己理解・他者理解のための交流分析活用研修	12月頃	
⑬ 個別援助技術研修	11月頃	
⑭ 就職内定者応援セミナー	2020年.3月	

(3) 福祉職員業種別・職種別研修の実施

研 修 名	開 催 時 期	開 催 場 所
① メンタルヘルス研修	1日間、老人・障害者施設	福井
② 看護職員研修	1日間、老人・障害者施設	
③ 給食担当職員研修	1日間、老人・障害者施設	福井、丹南
	1日間、児童施設	福井、丹南、坂井
④ 主任保育士研修	前期コース3日間	福井他
	後期コース3日間	
⑤ 中堅保育士研修	1日間	福井
⑥ (新)保育実習指導者研修会	2日間	福井
⑦ 職場研修担当者研修	2日間 老人・障害者・児童施設	福井
⑧ 認知症介護実践研修	基礎研修	6月
	実践者研修	5～2020年1月
	認知症対応型サービス事業管理者研修【開設前受講義務付】	5～12月
	小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修【開設前受講義務付】	7～12月
	認知症対応型サービス事業開設者研修【開設前受講義務付】	5～12月
⑨ 介護職員等研修	実践リーダー研修	9～12月
	初任者のための介護技術向上研修	6～12月
	中堅者のための介護技術向上研修	10～11月
	福祉用具・住宅改修研修	7～10月
	介護職員等訪問指導事業	7～2020年2月

(4) 介護支援専門員養成関連・資格習得支援研修の実施

研 修 名	開 催 時 期	開 催 場 所
① 介護支援専門員専門・更新研修(経験者)課程Ⅰ	12日間2コース	福井、丹南
② 介護支援専門員専門・更新研修(経験者)課程Ⅱ	8日間3コース	福井、丹南・嶺南
③ 介護支援専門員実務研修・再研修・更新研修(未経験者)	17日間2コース	5～8月 12～2020年3月
④ 介護支援専門員試験準備講習会	7日間	5～7月
⑤ 介護支援専門員試験模擬テスト	1日間	8月

(5) 保育士等キャリアアップ研修の実施

研 修 名	全 て 3 日 間	開 催 時 期	開 催 場 所
① 乳児保育	各3コース×3日間	5～2020年2月	福井、丹南、嶺南
② 幼児教育			
③ 障害児保育			
④ 食育・アレルギー対応			
⑤ 保健衛生・安全対策			
⑥ 保護者支援・子育て支援			
⑦ マネジメント研修	2コース×3日間	5～2020年2月	福井、丹南、嶺南
⑧ 保育実践研修	1コース×3日間		

福祉サービス第三者評価事業の受審のお願い

県社協では県（福井県第三者評価機関認証委員会）から福祉サービス第三者評価機関として認証を受け、平成18年度から評価事業を実施しています。本年度末までに児童福祉施設26施設、高齢者福祉施設26施設、障害者（児）等福祉施設30施設（※いずれも再受審も含む）の評価を行っています。

また、平成29年10月に「福井県福祉サービス第三者評価基準」が改定されたことを受け、本年度、評価対象事業や評価項目等のほか、新たに通所事業所を受審対象とする見直しを行いました。

今回は、定期的に受審をいただいている足羽福祉会に、第三者評価事業への取組み状況や施設経営への活用方法などについてお話を伺いました。



受審前の自己評価では、普段の業務が利用者の視点に立ったサービスとなっているかを、書類やマニュアル等の整理や業務の振り返りの中で行っています。これを施設経営に必要なPDCAサイクルの「C(チェック)」に位置づけながら、定期的な受審を通じて、施設の強みや弱みの再確認を行っています。施設が力を入れている取組みが高く評価されれば、職員の業務へのモチベーションの向上につながり、これからの取組みの後押しにもなります。さらに、職員が具体的に改善に向けた検討を行うことで、法人全体の中期的な事業課題や方針の明確化という点でのメリットも感じています。

福祉施設が本事業を受審することで、現状の福祉サービスの水準や課題を客観的に把握し、計画的・継続的にサービスの質の向上につながってほしいと思います。

次年度以降の積極的な受審について、ぜひご検討ください。

【問合せ先】 総務施設課 施設サービスグループ ☎0776-24-2347



2019年度 貸付事業募集開始のお知らせ



保育士・介護職員をめざす方や、
ひとり親家庭、児童養護施設入所者の方の自立生活を応援します！
いずれも、一定の要件(資格取得、対象業務への従事等)を満たせば、貸付金の全額が免除されます。

✓ 専門学校・短大・大学で資格を取られる方に…

介護福祉士・社会福祉士・保育士 修学資金 ※介護福祉士等修学資金は、介護事業所が法人として連帯保証人になることも可能です。

✓ 介護の仕事をしながら国家資格を目指す方に…

介護福祉士実務者研修受講資金貸付

✓ もう一度、介護・保育の仕事にチャレンジする方に…

離職介護人材再就職準備金、保育士就職準備金

✓ 高等職業訓練促進給付金を活用し資格を目指す方に…

ひとり親家庭職業訓練資金貸付

✓ 児童養護施設や里親等から自立する方の資格取得や生活費等の支援に…

児童養護施設入所者自立支援資金



2019年4月1日から募集を開始します。

貸付要件や申請方法など、詳細は福井県社会福祉協議会ホームページから募集要項をご確認ください。

【問合せ先】 地域福祉課 地域福祉グループ ☎0776-24-4987



寄付 寄贈

社会福祉事業の発展のために
活用させていただきます。



♡ 2月19日(火)

贈呈者 一般社団法人 生命保険協会 福井県協会 様 (福井市)

贈呈先 福祉巡回車 (軽自動車 2台)

福井市社会福祉協議会
越前市社会福祉協議会



車いす (12台)

足羽利生苑デイサービスセンター
あたごデイサービス
ヴィルヌーブあさくらデイサービスセンター
デイサービス桜手苑
花むつ苑デイサービスセンター
第3溪山荘あおぞらデイサービスセンター
ウエルネス木村
デイサービスセンター第2和上苑
上志比デイサービスセンター
南越前町社会福祉協議会河野デイサービスセンター
ほのぼの苑デイサービスセンター
越前町宮崎デイサービスセンターホテル荘

♡ 3月4日(月)

寄付金 300,000円

寄付者 一般社団法人 福井県電業協会 様(福井市)

贈呈先 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会

賛助会員を募集しています

福井県社会福祉協議会は、会費や寄付金、公費補助金、受託金等で運営されています。こうした財源は、民間団体として活気のある運営と活動の推進を図るためには欠かすことのできないものです。そのため、本会では、県民の方々や企業、各種団体等に賛助会員となっていていただき、その会費を活動財源の一部として活用させていただきます。

本会の活動の趣旨をご理解いただき、賛助会員としてご支援、ご協力くださいますようお願い申し上げます。入会に関するご質問、入会をご希望の方はどうぞお気軽にお問合せください。

**賛助
会費**

年額 一口 5,000円

申込み・問合せ先

総務施設課 総務グループ

☎ 0776-24-2339 FAX 0776-24-8941

E-mail somu@f-shakyo.or.jp

3.11

希望の灯り点灯セレモニー

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」の発災から8年。

平成24年から毎年続けている「3.11希望の灯り」点灯セレモニーが、この日、県社会福祉センターで行われました。

当日は、震災当時から県内社協との交流が続いている陸前高田市社会福祉協議会から届けられたビデオレターを視聴した後、同市社協の佐藤尚子事務局長の幼なじみで、現在は県内在住の井ノ部康江さんに、ふる里「陸前高田」への想いととも、燭台への灯りの点灯を行っていただきました。

参列者は、点灯後に黙とうを行い、震災を風化させることなく、被災地の復興、希望や願いをお互いに分かち合っていくことを確認しました。

(平成31年3月11日)※表紙写真関連記事



企業や団体の中には福祉団体やボランティアグループ等を対象に様々な助成事業を行っているところがあります。各団体より本会に周知依頼のあったものについてご紹介します。助成金を上手に活用して、活動のさらなる発展にご活用ください。

情報が変更になる可能性がありますので、問い合わせ・応募にあたっては、各民間助成団体のホームページや募集要項を事前にご確認ください。※以下の一覧表は、本会ホームページ〔<http://www.f-shakyo.or.jp/>〕からダウンロードできます。

【平成30年度実績】

名 称	助成対象	助成対象事業	助成額	申込締切	問合せ先(TEL)
福井県しあわせ福祉資金	非営利団体(ボランティア団体、市民活動団体、NPO法人等)	社会的支援を必要とする障がい者、高齢者などの社会参加を促す事業等。	20万円	4月下旬	福井県健康福祉部地域福祉課 地域健康福祉グループ 0776-20-0326
福井県子どもしあわせ福祉資金	非営利団体(ボランティア団体、市民活動団体、NPO法人等)	子どもへの直接的支援や子どもの環境向上のための事業等。	50万円	4月下旬	福井県健康福祉部地域福祉課 地域健康福祉グループ 0776-20-0326
福井県社会福祉協議会「まごころ基金助成」	民間の非営利活動団体・グループ	高齢者・障がい者・児童の福祉の充実を図ることを目的とする事業。	20万円	5月下旬	(福) 福井県社会福祉協議会 0776-24-2339
みずほ教育福祉財団「老後を豊かにするボランティア活動資金助成事業」	高齢者を主な対象として活動するボランティアグループ	高齢者を対象とした生活支援サービス、生活環境の向上、レクリエーション、多世代交流を図る等のボランティア活動。	10万円	5月下旬	(公財)みずほ教育福祉財団 03-3596-4532
日本おもちゃ図書館財団「新設のおもちゃ図書館におもちゃセット助成事業」	おもちゃ図書館を運営する団体	おもちゃの購入、手作りおもちゃのための材料、おもちゃ図書館整備のためのカーペット、おもちゃ格納戸棚、おもちゃ陳列棚の購入に要する費用。	おもちゃセット提供(15万円相当)と開設費用(10万円以内)	5月下旬	(一財)日本おもちゃ図書館財団 03-6435-2842
日本おもちゃ図書館財団「老人ホーム等社会福祉施設におもちゃ図書館を開設予定の団体」	老人ホーム等 社会福祉施設におもちゃ図書館を開設予定の団体	おもちゃ図書館開設支援事業	おもちゃセット提供(5万円相当)	5月下旬	(一財)日本おもちゃ図書館財団 03-6435-2842
大同生命厚生事業団「ビジネスパーソンボランティア活動助成」	社会福祉分野のボランティア活動を行うビジネスパーソン(会社員・個人事業主等)のグループ	高齢者・障がい者福祉に関するボランティア活動。子どもの健全な心を養うための交流ボランティア活動。	10万円	5月末日	(公財)大同生命厚生事業団 06-6447-7101
大同生命厚生事業団「シニア・ボランティア活動助成」	社会福祉分野のボランティア個人(年齢60歳以上)・グループ	高齢者・障がい者福祉に関するボランティア活動。子どもの健全な心を養うための交流ボランティア活動。	10万円	5月末日	(公財)大同生命厚生事業団 06-6447-7101
ドナルド・マクドナルド・ハウス財団「助成事業」	ボランティア団体等	0～20歳までの子どもの健康や福祉を直接改善するプログラム等。	総額200万円	5月末日	財団ドナルド・マクドナルド・ハウス財団03-6911-6068
毎日新聞東京社会事業団「毎日社会福祉顕彰」推薦	社会福祉関係者および団体等	社会貢献の功績、特定分野の功績	賞碑および賞金100万円	5月末日	(公財)毎日新聞東京社会事業団 03-3213-2674
丸紅基金「社会福祉助成金」	非営利法人	社会福祉事業(福祉施設の運営、福祉活動など)を行う民間の団体が企画する事業。	200万円	5月末日	(福)丸紅基金 03-3282-7591
ニッセイ財団「高齢社会助成」	(1)社会福祉法人、NPO法人等 (2)研究者、実践家等	(1)地域福祉チャレンジ活動助成…地域包括ケアシステムの展開につながる活動等。 (2)実践的研究助成…実践的研究助成対象分野・テーマ(要項参照)に対する課題を明確にした実践的研究等。	各部門別に助成限度額を設けている	(1)5月末日 (2)6月中旬	(公財)日本生命財団 06-6204-4013
読売新聞社「よみうり子育て応援団大賞」	子どもや親を対象にした支援活動を行う民間のグループ、団体	「子育てサークル」「男性の育児参加」「女性の就労支援」「子どもの福祉」などをテーマにした活動。	大賞…賞金200万円 奨励賞…賞金100万円	6月上旬	読売新聞大阪本社「よみうり子育て応援団大賞」事務局 06-6881-7228
みずほ教育福祉財団「配食用小型電気自動車寄贈事業」	ボランティアグループ、NPO法人等	高齢者向け配食サービス	1台	6月上旬	(公財)みずほ教育福祉財団 03-3596-4532
日本財団「福祉車両助成事業」	非営利団体等	在宅サービス、通所サービス、就労支援のための車両配備	当該財団指定車種から希望車両を選ぶラインナップ型	6月末日	(公財)日本財団 03-6229-5163
伊藤忠記念財団「子ども文庫助成」	ボランティア団体、個人	子ども達の読書啓発活動、指導等。	各部門別に助成限度額を設けている	6月末日	(公社)読書推進運動協議会 03-3260-3071
太陽生命厚生財団「社会福祉助成事業」	ボランティアグループ、NPO法人等(法人格の有無は不問)	在宅高齢者、在宅障がい者の自助・自立を支援する事業等。 高齢者保健、高齢者福祉に関する研究・調査。	各部門別に助成限度額を設けている	6月末日	(公財)太陽生命厚生財団 03-6674-1217
生命保険協会「子育てと仕事の両立支援に対する助成活動」	社会福祉法人、株式会社、NPO法人等法人格を有していること	(1)保育所利用者の多様なニーズに対応した必要な設備の整備、備品購入に係る費用等。 (2)放課後児童クラブの受け皿拡大や質の向上に必要な設備の整備、備品購入に係る費用等。	(1)上限35万円 (2)上限20万円	6月末日	(一社)生命保険協会 広報部内「子育てと仕事の両立支援」事務局 03-3286-2643
みずほ福祉助成財団「社会福祉助成金」	非営利法人、任意団体、ボランティアグループ等または研究グループ(個人を除く)	障がい児者の福祉向上を目的とする事業および研究。	事業助成…20~100万円 研究助成…100万円	6月末日	(公財)みずほ福祉助成財団 03-3596-5633
損保ジャパン日本興亜福祉財団「住民参加型福祉活動資金助成」	5人以上で活動する非営利団体	地域における複合的な生活課題に、地域住民が主体となって、包括的な支援を行なう活動	30万円	7月中旬	(公財)損保ジャパン日本興亜福祉財団03-3349-9570
清水基金「一般助成事業」	障がい児・者の各関係施設を運営する民間社会福祉法人	利用者のために必要な建物(新築、改修、増改築)・車両・機器等。	50~1,000万円	7月末日	(福)清水基金 03-3273-3503
松翁会「社会福祉助成事業」	法人施設、団体(個人は不可)	社会福祉に関する民間の事業、研究等。	60万円	7月末日	(一財)松翁会 03-3201-3225
植山つる「児童福祉研究奨励基金」	児童福祉施設に働く職員(個人・施設・グループ・団体)	研究A…児童福祉に関する自主研究 研究B…児童福祉に関する自主研究でさらに成果を発展させるための共同研究	研究A…20万円 研究B…100万円	8月下旬	(福)全国社会福祉協議会児童部 03-3581-6503
大和証券福祉財団「ボランティア活動助成」	ボランティア団体・グループ	高齢者、障がい児・者、児童への支援活動およびその他、社会的意識の高いボランティア活動。	30万円	9月中旬	(公財)大和証券福祉財団 03-5555-4640
東京海上日動あんしん生命日本フィランソपी協会「給付型奨学金制度等」	疾病により保護者を失い、経済的理由により支援を必要とする児童等 ^(※)	経済的理由により支援を必要とし、高等学校等から大学等への進学希望がある方等(※詳細は日本フィランソपी協会のHPをご確認ください。)	奨学金等…30万円	9月中旬	(公財)日本フィランソपी協会 03-5205-7580

名 称	助成対象	助成対象事業	助成額	申込締切	問合せ先(TEL)
全労災 「地域貢献助成事業」	NPO法人、任意団体、 市民団体等	自然災害に備え、いのちを守るための活動、子どもや親子の孤立を防ぎ、地域とのつながりを生みだす活動、困難を抱える子ども・親がたすけあい、生きる力を育む活動等。	30万円	10月上旬	全労災 地域貢献助成事業局 03-3299-0161
都市緑化機構 「花王・みんなの森づくり活動助成」	緑化活動団体等	市民による「森づくり活動」と「環境教育活動」。	各部門別に助成限度額を設けている	10月中旬	(公財)都市緑化機構 03-5216-7191
損保ジャパン日本興亜福祉財団 「認定NPO法人取得資金助成」	社会福祉分野で活動し 認定NPO法人の取得を 計画するNPO法人	認定NPO法人の取得に関する費用	30万円	10月下旬	(公財)損保ジャパン日本興亜 福祉財団03-3349-9570
北陸労働金庫 「NPO助成金制度」	NPO法人、ボランティア 団体等	環境、国際交流・国際協力、社会福祉、まちづくり、 安心・安全活動など。	30万円	10月末日	北陸労働金庫 076-231-2165
キリン福祉財団 「キリン・地域のちから応援事業」	4名以上のメンバーが 活動する団体・グループ	地域やコミュニティの活性化に関わるボラン ティア活動など	30万円	10月末日	(公財)キリン福祉財団 03-6837-7013
アイシングループ 「オールアイシンNPO活動 応援基金」	営利を目的としない団 体・組織	社会福祉活動の推進、地域発展、まちづくりの推 進、青少年育成活動の推進、自然・環境保護活動の 推進等。	10万円	11月初旬	オールアイシンNPO活動応 援基金福井事務局 0778-25-7616
日本郵便株式会社 「年賀寄附金配分金」	営利を目的としない公 益の増進に寄与する法 人格を持つ団体	社会福祉の増進を目的とする事業等。	各部門別に助成限 度額を設けている	11月初旬	日本郵便㈱ 年賀寄附金事務局 03-3504-4401
日本たばこ産業 「NPO助成事業」	1年以上の活動実績を もつ非営利法人	地域と一体となって「地域コミュニティの再生と 活性化」に取り組む事業等。	上限150万円	11月中旬	日本たばこ産業㈱ 03-5572-4290
ヤマト福祉財団 「ジャンプアップ助成金」 「障がい者福祉助成金」	障がい者施設・事業所	障がい者の工賃向上や自立と社会参加への支援 に直結する事業。	各部門別に助成限 度額を設けている	11月末日	(財)ヤマト福祉財団 03-3248-0691
毎日新聞大阪社会事業団 「公募福祉助成金」	児童福祉、障がい者福 祉、高齢者福祉、医療福 祉等を行う民間団体	緊急を要する活動費助成、もしくは事業(プロジ ェクト)助成	50万円	12月中旬	(公財)毎日新聞大阪社会事業団 06-6346-1180
環境再生保全機構 「地球環境基金助成金」	一般社団法人、一般財団 法人、NPO法人等	開発途上地域又は日本国内で実施する環境 保全活動等。	各部門別に助成限 度額を設けている	12月中旬	(独)環境再生保全機構 044-520-9505
楽天 未来のつばさ 「自立奨学支援資金」	児童養護施設または里 親家庭で生活する児童	18歳を迎え進学・就職する児童の自立支援事業	就職・進学支度金 15万円	12月下旬	(公財)楽天 未来のつばさ財団 03-5642-7890
さわやか福祉財団 「連合・愛のキャンパ」	非営利の任意団体、NPO法 人、グループ、サークル など	新たに始める高齢者、子ども、障がい者等の助け 合い・支え合い活動。	15万円	12月下旬	(公財)さわやか福祉財団 03-5470-7751
コーポレートガバナンス協会 「北川奨励賞」	難病や障がいをもつ子ど もとその家族対象のボラ ンティアグループ、個人	難病や障がいをもつ子どもとその家族の支援に 対する社会医学的な実践、セルフヘルプ活動、ボ ランティア活動等。	50万円	1月中旬	(特非)コーポレートガバナンス協会 北川奨励賞事務局 045-263-6965
三菱財団 「社会福祉事業」 「研究助成」	社会福祉を目的とする 民間の事業(法人)、調査 研究(個人、法人)	開拓的ないし実験的な社会福祉を目的とする民 間の事業、社会福祉に関する調査研究等。	総額 8,200万円	1月中旬	(公財)三菱財団 03-3214-5754
福井県民生協同組合 「市民活動助成金」	非営利の任意団体等。(福 井県民生協同組合員が1名 以上参加していること)	「食育」「環境」「福祉」「子育て支援」などの社会貢 献活動	10万円	1月末日	福井県民生協同組合 組織ネットワーク支援部 0120-016-165
福祉医療機構 「社会福祉振興助成事業」	社会福祉の振興に寄与 する事業を行う、営利を 目的としない団体	(1)通常事業 (2)モデル事業 ①地域連携活動支援事業 ②全国的・広域的ネットワーク活動支援事業	各部門別に助成限 度額を設けている	(1)1月末日 (2)2月上旬	(独)福祉医療機構 03-3438-4756
杉浦記念財団 杉浦地域医療振興助成	日本国内で活動する個 人又は団体	「地域包括ケア」「健康寿命の延伸」に関する住民 参加型の活動	各部門別に助成限 度額を設けている	2月末日	(公財)杉浦記念財団 0562-45-2731
冠婚葬祭文化振興財団 「社会貢献基金助成」	非営利の任意団体・市民 ボランティアグループ など	高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、環境・文化財 保全、地域つながり事業、冠婚葬祭継承事業	200万円	2月末日	(一財)冠婚葬祭文化振興財団 03-3500-4211
NHK 厚生文化事業団 「地域福祉を支援する わかば基金」	地域に根ざした福祉活 動を展開しているグル ープ(NPO 法人含む)	高齢者、障がい者の日常生活支援活動等。 地域の高齢者や障がい者へのパソコン指導等。	支援金部門 …100万円 リサイクルパソコン部門 …1団体最大3台まで	3月末日	(福)NHK 厚生文化事業団 03-3476-5955

福井県共同募金会が受け付けしている助成事業

詳しくは、福井県共同募金会までお問合せください。〔TEL:0776-22-1657 ホームページアドレス:<http://akaihane-fukui.jp/>〕

名 称	助成対象	助成対象分野、条件等	助成額	申込締切	決定(内定)
共同募金助成金(広域助成)	福井を良くしようと がんばっている団体	2020年度に計画する活動費、備品、建物整備	50万円以内 設備整備は 200万円以内	5月下旬	8月下旬
先駆的・開拓的活動支援事業		2019年度に実施する先駆的・開拓的な福祉事業を支援	50万円以内		
ステップアップ助成事業		2019年、2020年度と2年間継続して助成が必要な事業			
災害等準備金の取崩し助成事業		大規模災害に備えた事業や研修会、緊急に助成が必要な事業			
小林福祉基金の助成事業		身体障害者施設	福祉向上のために実施する事業、備品		
共同募金助成金(地域助成)	地域(市町)を良くしようとが んばっている団体	※期間や助成内容は市町で異なる場合があります。 詳細は各市町共同募金委員会(市町社協)にお問い合わせください。		5月	8月
NHK歳末たすけあい	支援を必要とする方々を対象 とした事業をおこなう団体	①歳末ふれあい事業 ②地域福祉事業 ③地域福祉備品	50万円以内	10月中旬	12月上旬
車両競技公益資金記念財団	ボランティア団体	ボランティアに必要な備品	90万円以内	7月中旬	9月下旬
	保育所・こども園	補修・改修	400万円以内		
中央競馬馬主社会福祉財団 施設設備等助成事業	社会福祉法人、NPO法人	車両、備品の購入および施設修繕等	100万円以内	6月下旬	8月中旬